

第3部 16:20~18:30 『グループディスカッションと発表』

■グループディスカッション後の最終張り出し「文化庁への意見」まとめ

多様化への要望

- ・価値観の多様化をふまえて欲しい
 - ・多文化共生・多国籍・移民受け入れ
 - ・多様
-

「世界の文化芸術の交流のハブ」について

- ・ハブという言葉の持つイメージが中心的すぎる。「プラットフォーム」や「ネットワーク」というイメージを含むべき
- ・ハブの多様化
- ・区町村の地域の大小のみならず多様な役割を持つハブを顕在化する。
- ・「ハブ」はいろんなプラットフォームがなし得る
- ・役割の違う「ハブ・プラットフォーム」が大小問わずたくさん顕在化するべき
- ・「ハブ」とは何？どうあると豊かなのか？
- ・世界の文化交流のハブといったときハブ空港のイメージが前提になっていないか？全てがひとつのハブを経由する“支配”の高揚感のようなものがないか？
その状況は否定したい。ハブのイメージを変える必要がある。複数のハブ、中心のないモデルへの転換。提言:「ハブのイメージの中身を変える」
- ・ハブとハブを様々に繋げる。企業とハブを繋ぐ、人と人を繋ぐ・・・etc
- ・3年以上の実績を有する団体への助成を出すにしても、助成を受けた団体は2団体以上の他の団体とつながって事業を実施しなければならないなど連携と多様性を含めていく。

地方自治体／中央から地域へ

- ・地方自治体の強化
- ・人口分散
- ・日本≠東京
- ・脱中心・脱東京
- ・文科省を東京から他府県に移転
- ・文化庁⇒自治体(つなぎの強化)

労働環境

- ・非常勤の雇用制度⇒短期は損気
- ・労働保険分の上乗せ人件費を認める
- ・働きやすく
- ・「資格」制度。ハローワークシステム導入。組合のようなものを作り労働環境 UP
- ・労働力(人)への対価を再考して欲しい
- ・制作者(アートマネージャー)の制度的確立。社会化。
- ・人材にお金を支払うことを認める(人材育成の直接的な支援)(助成事業の対象経費)

文化庁内の改革

- ・文科省へ
- ・人事権のオープン化
- ・文化庁職員の対外(現場)研修の必要性
- ・文化庁のプレーン機関。国際化した人選名簿を提出して提案。
- ・文化のわかる施政者と地方・国家公務員⇒義務教育での文化体験の充実
- ・文化庁の方が現場へ足を運ぶ機会を！
- ・文化庁にプロパー職員を！

文化庁の政策への要望

- ・義務教育中の文化体験⇒TIE(シアター・イン・エドイケーション／イギリスなど)のようなもの
- ・助成金の半額前払い
- ・単年度支援から継続支援へ
- ・現代芸術の価値基準とは？
- ・ネットワーキング／マッチングのプロフェッショナルを育成する！！
- ・世界で活躍する批評家・ジャーナリストなどきちんと言語化し伝え、リテラシーを高めるような人材の育成
- ・専門家の育成。専門性への評価

ON-PAM と文化庁への接点への要望

- ・もっと文化庁の人と直接に話す場が欲しい(今日はあった)
- ・文化庁の職員と交流の場を増やす⇒相互理解の場を
- ・資格なのか？制度なのか？制作者を社会化する為に説明できる組織として ON-PAM は機能する？
⇒社会化

第3部・了

第2回文化政策委員会(文化政策ラボ vol.4)20140622@スパイラルホール